

金曜日の会 報告

- 1 期 日 8月28日
- 2 場 所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O, AR, AK, AS, YO
- 4 内 容

『ひばりのす』映像 (AR, AK)

『マット運動』解釈 (AS)

○問診をする目的を明確に持つことが大切です。連ごとの場所のちがいについてなら、そこだけで問診を進めていくことです。一部の子どもたちに乗っかって、最初から突っ込めば突っ込むほど、ドロップアウトする子どもが出てきます。

○子どもたち一人一人に、しっかりと問題作りをする力をつけていく必要があります。一部の子どもたちが作る現状から、みんながいろんな問題を作れる学級集団にしていくことは、他の様々な教科に波及するでしょう。一連だけでも、どれだけ作れるか、みんなでやってみました。教師が豊かに問題作りをすることは、子どもの作った問題のすごさに気付くことにもつながり、授業の幅にもつながると思います。(たまごが五つ)『ならんでる』と『転がってる』、こうした比較の問題から、戸田学級の子どもたちはたまごの中の生命にまでイメージを膨らませていくそうです。『問題作りをすることは、扉を開いてリアルにもものを見ること』深い言葉です。

○子どもたちに考える余地を与える、ゆったりとした話し方についても話題になりました。そのためには、自分がしゃべったら教師は子どもたちをちゃんと見なくてはなりません。それが相手意識というものだと、改めて感じました。

○『何のためにそれをするのか?』こういうことを考えていなければ、私たちは大切なこと(本質的なこと)を見失うことになります。私は、はっとさせられました。同時に、自分がまだまだ分かっていないなあとも思いました。『マット運動は、何のためにするのか?』、自分の体をコントロールし自分を守るため、こういうことを考えた上で、実践に向かいたいと思いました。

○様々な学年の2学期の教材に触れる機会をいただきました。新教材だけでなく光村にもあった教材にも触れました。私も原文を知らないので一概には言えませんが、Tの国語の教科書は、問題有りだと改めて思いました。6年『海の命』に確か『母が毎日見ている海は、いつしか太一にとって自由な世界になっていた。』というような一文があったと思うのですが、新教科書にはありません。5年『大造じいさんとガン』には前文がありましたが、新教科書にはありません。しかも、『それは、最期の時を感じて、～』の指示語『それは、』が削除されています。各学年の教材で段落も変わっているところがあります。少なくとも、教科書は、原文に忠実であってほしいです。(YO)